

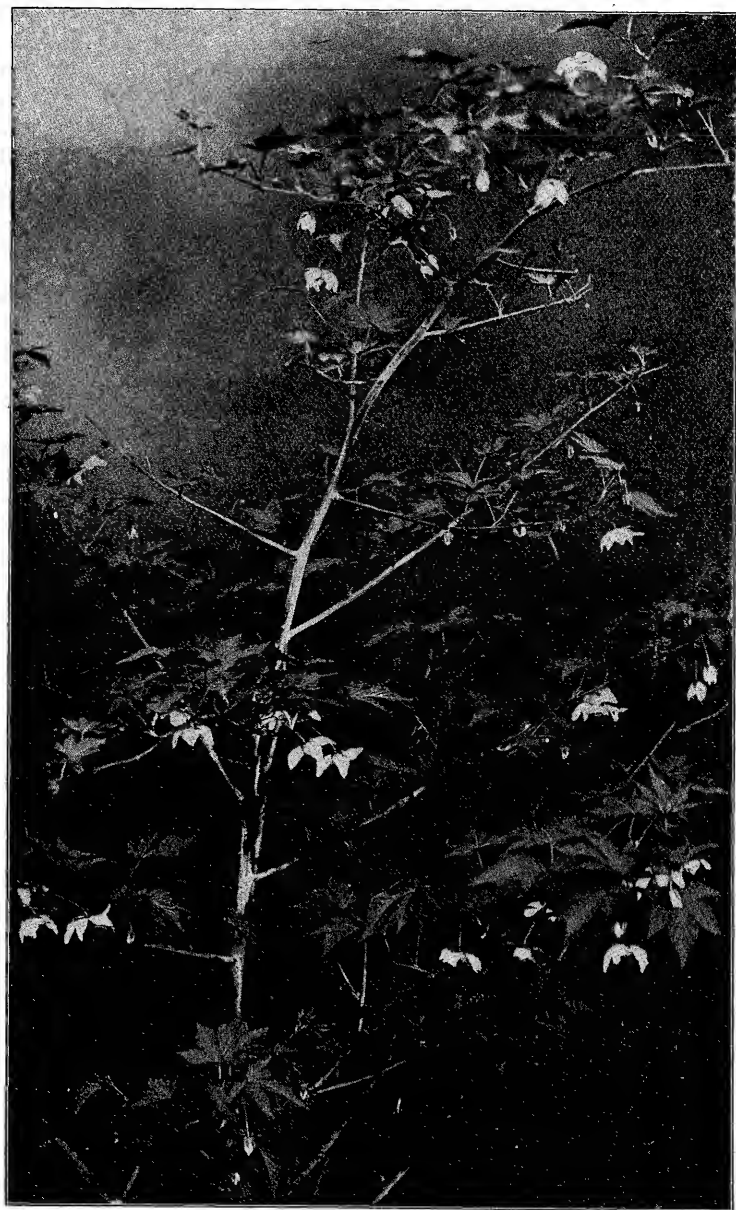
珍ラシキジョーしゅいちじ

周圍ニ淡黃色ニシテ卷絡セル極メテ萎縮シタル舌狀花群ニヨリ圍繞セラレ *Rudbeckia* ノ花ノ中心部ニ類似シ高サ一乃至一「セ、メ」半ニ達シテ居ル、コレ等ノ事實ニ徴スルニ此植物ハ甚數ク多型ノ花ヲ着クモノデアツテ此狀態デ行クナラバ今後如何様ニ相成ルモノヤラ到底常規ヲ以テ豫測スルコトノ出來ナイ即チ小人ノ端倪シ得ラレザルモノデアルト云フベキモノト考ヘラレル、從ツテカ、ル變化性ヲ有スル以上假令コレガ現在ノ菊ノ原種デナイトシテモ菊ニ於ケル變化ニヨク似テ居ル、既ニ菊ニシロ此てうせんのぎくニシロ甚ダ變化性ニ富ンデ居ルコトガウナヅカレルカラ兩種ヲ交配シタラトハ誰レ人モ思フデアラウガ今余ノ問題ニシテ居ルモノニハ今ノ所實ノ出來ル證據ガ舉ラナイノデアアル

## ○珍ラシキジョーしゅいちじ

高知縣 吉 永 虎 馬

往年白井光太郎先生ヲ小石川區新小川町ノ邸ニ訪問シタル際、其所藏ニ係ル種々ノ貴重ナル文獻ヲ見セテ戴イタ事ガアル、其時特ニ興味ヲ惹キタルハ曲亭馬琴ノ調製セル植物標本帖デアツタ、コレハ半紙大ノ横帖ニ種々ノ植物ノ花葉ナドヲ貼附シタルモノデ極メテ美シク保存セラレテ居タト記憶シテ居ル、其貼附ケラレタル葉ノ中ニいちごノ一種デ掌狀ヲナセルモノガアツタ、先生ハ此種ハ何處デ得タモノデアるか未ダ邦内デ之ヲ發見シタルコトガナイト申サレタ、ソコデ私ハ之ヲ見テフト心ニ浮ビタルハ明治四十年八月高知縣長岡郡本山附近小學校教員ノ講習會ニ招カレテ行ツタ時會員ノ一人ガ採集シテ來タ植物ノ中ニ頗ル此種ニ似タモノガアツタ様ニ思ハレタコトデアツタ、或ハ同種デハナイカト臆氣ナガラ考ヘラレタノデ他日ノ採集調査ヲ期シテ歸ツタノデアル、其後私ハ暫ク本山ノ方デ之ヲ得ル便利ヲ有タヌノデ其儘ニナツテ居タガ大正三年ノ春當時私ノ奉職セル高知縣立高等女學校生徒ヲ伴ヒテ高知市ヲ北ニ隔ル一里餘ノ椎野坂ヲ越ユル際圖ラズモ坂頭ニ近キ藪ノ中ニ此

珍  
ラ  
シ  
キ  
ゴ  
シ  
ョ  
イ  
チ  
ゴ

こしょいちご (*Rubus officinalis* Koidzumi.)  
 長門産 (今カラ十餘程以前ニ山口縣立農業學校小田常太郎君ヨリ寄贈ノ寫眞)  
 (牧野富太郎挿入)

珍ラシキじしやちん

種が多クノ花ヲ開イテ居ルノヲ見早速之ヲ採集シテ歸リ標本ニ製シテ後白井先生へ寄贈シタノデアル、當時先生ヨリハ直ニ感謝ノ返書ヲ寄セラレ且他日名稱ヲ考定セバ之ヲ報ゼント申越サレタ

大正十五年八月、同土佐郡森村附近組合小學校教員ノ講習會へ出張シタル時ニモ亦講習會員ノ之ヲ採集シ來レルヲ見、又一日同村字和田ノ翠瀧へ見物ニ行キタル際其山路ニテ多生セルノヲ見タ、其時大川村第一尋常小學校長公文勝氏ハ此種が大川村ニモ生ジテ居ルコトヲ話サレタノデ此等ノ事實ニヨリテ本種が本山附近ヨリ弘ク大川村附近即チ吉野川沿岸地方、所謂嶺北ノ各地ニ分布セルコトヲ知ツタ

私ハ前ニ記シタル白井先生ニ送リタルト同様ノ標本ヲ牧野先生ニモ送ツテ名稱ノ教ヲ乞フタノデアルガ不明デアッタ、後公文氏ノ好意ニヨリテ其一株ヲ態々大川村ヨリ寄贈セラレタノヲ栽植セシニ能ク根附キテ爾來大ニ蕃殖シ年々花ヲ開キ果實ヲ結ブニヨリテ十分ニ之ヲ觀察スルノ機會ヲ得又好標本ヲ製スルコトヲ得タノデ其後モ又牧野先生ニ呈シタノデアル、然ルニ名稱ハ終ニ確定ヲ見ズシテ其儘ニナツテ居タガ一昨年二月神戸ニテ同先生ト會シタル際、京大ノ小泉博士ハいちご屬ノ標本ヲ多數所有シ且研究シツ、アルカラ歸途同教室ニ立寄リタル節調べテ見ンコトヲ約サレタ、同年八月先生ガ石槌山及面河溪植物採集會ニ臨マレタル時ニ之ヲ質シタルニ此種ハごしよいちごト稱シ嘗テ九州デ見出サレタコトガアルトノ教ヲ受ケテ初メテ多年ニ亙ル疑問ヲ解クトヲ得テ非常ニ愉快ニ感ゼラレタ、歸縣後小泉博士ノ *Conspectus Rosearum Japonicarum* ヲ檢シタルニ學名トシテ *Rubus Tanakae* O. Kze. ヲ用ヒ栽培種ナリトシ、尙岩崎灌園ノ本草圖譜二十五冊ガ引用サレテ居タ、然ルニ一昨々年二月發行植物學雜誌第五一八號ニ於テ同博士ハ *Contributions ad Cognitionem Florae Asiae*. 中ごしよいちごヲ一新種トシテ *Rubus officinalis* Komz. n. sp. ノ名デ發表サレテ居ルノデ學名トシテ其何レヲ取リテヨキカ又兩名稱ノ關係ガ記載文デハ明ニナイノデ之ヲ質シ尙馬琴ノ標本ノ事ヲ附記シタルニ直ニ左ノ如キ詳細ナル回答ヲ寄セラレ其好意ニヨリテ正名ヲ知ルヲ得併セテ偶然ニモ馬琴ノ採集シタル標本ノ出所ヲ

確カムルコトヲ得タ

昭和七年一月三十一日 小泉博士回答

御送りの植物はゴシヨイチゴにして舊く江戸薬園に栽植ありしものゝ如く本草圖譜に最初の圖あり馬琴も薬園にて採りしものゝ如く松村先生は之に *Rubus Tanakae* O. Kuntze. と同定されてそのまゝなりしが小生在外中眞の *Rubus Tanakae* O. Kuntze. を實見し本植物は之に非るをたしかめ之と同時に和蘭にてシボルトの採品を見るに意外にもゴシヨイチゴありて江戸にて採りしもの無論薬園なりしものを見初て本草圖譜の之が近くまで薬園にありしが今は絶えしを知れり之と同時に英佛獨の博物館にて支那中部にて採りしゴシヨイチゴありて無名なりそれで小生は之は支那より薬園に傳へしものと考へて歸朝すれば豊前國より生品來りその後山口縣よりも來り初て中部支那要素にして西南日本に分布する一品なるを知り今又土佐國に産する事を知り申候

學名は薬園に栽培せしを以て *Rubus officinalis* Kuntze. n. sp. と命じ候

昔薬園にありし *Rubus Tanakae* 果して何ぞやの問題を解決せざるまでは實に小生の苦痛の種子にて候しが以上の如き經過にて之を解決せし當時は實に重荷をゐろせし感今尙忘れ難く候

右名稱ノ確定スルト同時ニ之ヲ白井先生ニ報ジタルニ「偕此度はゴシヨイチゴに就き詳細御垂示御懇篤の御心情感謝の至に奉存候馬琴の腊葉も學者參考の資と相成定めし地下にありて満足致居候事と奉存候」トノ返信ヲ寄セラレタ

偕本種ガ *Rubus officinalis* Kuntze. ト定リタル後ハ嘗テゴシヨイチゴノ名稱ニ當テラレタル *R. Tanakae* O. Kuntze. ナルモノハ如何ナル種デアルカニ就キテ再ビ小泉博士ヲ煩シタルニ折返シテ左ノ如ク通信セラレタノデ愈々相互名稱ノ關係ヲ明ニスルコトヲ得タノヲ悦ンデ居ル

小笠原島地衣「フローラ」資料 (二)

昭和七年二月十八日 小泉博士回答

拜復 Rubus Tanakae O. KUNTZE. の原品はウイン博物館にありて明治五年四月三日東京博物館園ニテ田中

芳男採集 (No. 8) ナリ昭和元年九月十八日小生此に此標品を検して普通のモミヂイチゴ (キイチゴ) Rubus copiphyllus A. Gray. なるをたしかめ申候

尙此植物ハ其後土佐郡土佐山村桑尾鏡川畔ニ生ズルコトヲ知り又同郡大川村船戸擔當區官舎詰川島森林主事ノ採集標本中ニテモ發見シタ

○小笠原島地衣「フローラ」ノ資料 (二)

佐藤 正己

M. M. Sáró: Materials for a lichen flora of Bonin Islands. (II)

いはのり科 Collema

此科ハ Pyrenocollema, Leprocollema, Leciophysma, Lempholenum, Lemmopsis, Physma, Homothecium, Collema, Collenodes, Koerberia, Arcotomia, Leptogium, Ramalodium. ノ十三屬 (尙他ニ疑問ノ二屬アリ) カラナル大キナ科デアルガ残念ナガラ日本デハ僅ニ Collema ト Leptogium トノ二屬シカ發見サレテキナイ、然シテ小笠原諸島デモ以上ノ二屬ノモノガ數種採集サレタ

いはのり屬 Collema A. ZAHNBROCKNER

此屬ノ地衣ハ一般ニ葉狀膜質デ乾燥シタ時ハ脆イガ濕ツタ時ニハ寒天様トナル、裏面全部ガ基物上ニ横臥シテ菌絲ニヨツテ附着シ別ニ假根ヲ有シナイ、上下兩面共ニ皮層ヲ缺キ同層地衣デ Zoödoc 藻ヨリナル「ゴニデア」ト菌絲トハ互ニ混ジテキル、裸子器ハ圓形デ始メハ埋没シ後ニ少シク浮上リ地衣體上ニ座シ又ハ短柄ヲ有スル